

# 佐賀のおいしい農作物

2025  
Vol. 3

## たまねぎ



白石平野で盛んな玉ねぎは全国で最も早く収穫され、生産量は全国3位です。

玉ねぎの栽培面積は約2700haでみずほpaypayドーム3860個分です。

## いちご



平成10年に「さがほのか」が誕生し、20年ぶりに「いちごさん」という新ブランドがデビューしました。

## ハウスみかん



生産量が全国1位です  
みかんは「佐賀みかん」や「にじゅうまる」といったブランドがあります。

## 麦



佐賀平野では米のあとに麦をまく二毛作が盛んでビールの原料になる二条大麦は全国1位です。

## 米



佐賀平野では昔から米作りが活発で、最高評価の特Aのおいしいブランド米もあります。

佐賀県のカントリーエレベーターの普及率は80%を超え、全国平均の20%をはるかに上回ります。



佐賀では昔から米作りが盛んでしたが、畑作には向かない地域でした。  
こんなにも畑作が盛んになったのはなぜでしょうか？



## 畑作が盛んになったきっかけの一つにクリーク（水路）の整備があります

### クリークって何？

干拓で作られた農地に水を送るために佐賀平野に張り巡らされた水路です。

農業用水を貯めたり、雨水を貯めて、洪水を防ぐ役割があります。



- ・形が不規則、分散している
- ・いつも満水で、大雨のときには洪水
- ・田んぼの水はけが悪く、米以外作れない
- ・干満差を活用した取水（アオ取水）  
(淡水か、なめて確認していたことも)

- ・整理・統合され、まっすぐに
- ・クリークの水深を1mまで下げられるように  
→洪水防止、畑作が可能に  
**耕地利用率全国1位！**
- ・潮の満ち引きに左右されない安定的な  
用水供給を実現

### 国営総合農地防災事業「筑後川下流右岸地区」

土でできたクリークは法面が崩壊しやすく、水路の中に崩壊した法面の土が貯まると、必要な農業用水を確保できなくなったり、大雨の時に洪水になる危険があります。  
筑後川下流右岸農地防災事業所では平成24年からクリークの法面の整備を行っています。  
本チラシは若手職員の広報活動の一環として作成しています。詳細はQRコードから！

